

平成21年 4月30日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006～2008

課題番号：18520305

研究課題名（和文） アブハズ語のデータベース構築と辞書作成

研究課題名（英文） A Lexicon and Constructed Data-Base of the Abkhaz Language

研究代表者

柳沢 民雄 (Yanagisawa Tamio)

名古屋大学・大学院国際言語文化研究科・教授

研究者番号：80220185

研究成果の概要：アブハズ語話者から収集した資料をデータベース化し、これを辞書形式に纏めた。動詞は終止形と非終止形、接辞のスロット配置構造の型、他を、名詞は複数形と不定形を記述した。例文は全て形態素に分析し、英語とロシア語の訳を付けた。これを「Analytic Dictionary of Abkhaz」として纏め、平成21年度の科研費・研究成果公開促進費「学術図書」に応募し内定を得た。平成22年2月にひつじ書房より出版予定である。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,400,000	0	1,400,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,400,000	600,000	4,000,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：アブハズ語、カフカース諸語、データベース、辞書

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初までに行われていたアブハズ語研究は、アブハズ語の動詞形態論の研究（平成12-13年度の科学研究費補助金「ロシア・ソヴィエト言語類型論の研究」と平成14-15年度の科学研究費補助金「アブハズ語の動詞構造の研究」によって行われた研究）、及びアブハズ語テキストの分析と基礎語彙集の作成である（平成16-17年度の科学研究費補助金「アブハズ語テキストの分析と基礎語彙集の作成」によって行われた研究）。

アブハズ語は複統合語と呼ばれる言語であるので、動詞一語でも単文を表現することが可能である。このためにまず動詞構造を中

心とした人称接辞の働き、及び命令、使役、否定、Version、可能法、不随法などの文法範疇を表現する接辞の働きをアブハズ語母語話者より調査した。その後民話テキストと神話テキストの分析を行った。この過程でテキストに現れる語彙を収集し、それらの文法事項を出来る限りインフォーマントから調査した。これによってアブハズ語の6話の民話・神話テキストを分析することができた。さらに以前から調査をしてきた基礎語彙の文法調査によって得られた語彙を合わせると、この時点でおおよそ4千語の語彙を調査した。この中で名詞は複数形をそのアクセント位置も考慮して調査した（アブハズ語の名詞は格変化を行わないために、名詞に関する限

り複数形の形態を調査すればよいからである)。これに対して動詞は様々な種類の接辞が動詞語根に附加し、大きな動詞複合体を形成するためにこの記述は膨大なものになる。最も基本的な動詞(およそ300語)に関しては、全てのテンス・アスペクトに関する人称形、各文法範疇の肯定と否定形(アオリスト形で代表)、非終止形(関係詞的な構文や疑問文を作る際に基本となる形)をインフォーマントより調査し記述した。それ以外の動詞(およそ1千語)については、終止形の現在形とアオリスト形(肯定形と否定形の両方の形を併記)、命令法、非終止形の現在形とアオリスト形(肯定形と否定形の両方の形を併記)をインフォーマントより調査して記述した。さらにテキストからの例文を分析し、それをロシア語に翻訳した。またインフォーマントに作成して頂いた文を記述した。これが研究開始段階でのアブハズ語のデータを中心に纏めた基礎語彙集の内容である。

## 2. 研究の目的

研究の目的は、インフォーマントから収集したアブハズ語のデータを基にして、これを辞書レベルまで拡大することを目指す。即ち、アブハズ語の動詞形態を中心とするデータベースを構築すると共に、それを基にしてアブハズ語のテキスト解釈のための基本的リファレンスとなるアブハズ語の辞書を作成することを目指す。この辞書は、動詞の詳細な文法項目と例文やコロケーションを含むものであり、これらの例文や文法項目は、いずれも各形態素に文法分析された形で記述される。このためにアブハズ語研究者だけでなく、一般のアブハズ語学習者にも利用しやすいものを目指している。またこの辞書には基礎的な動詞の文法情報だけでなく、アクセントの記述と非アクセント下のシュワerschwaの出没を出来る限り網羅的に記載するので、アブハズ語の動詞形態論だけでなく音韻論やアクセント論の一次資料とすることができる。

このような辞書は欧米や旧ソ連邦諸国においては未だ出版されていない。また世界のアブハズ語辞典の状況から推察すれば、本研究によってなされる動詞基本語(およそ2千語)の網羅的な文法的記述は、恐らく西欧だけでなくアブハジアやロシア地域においても初めての記述であろうと思われる。このようなことを勘案して、辞書は例文も含めてすべてのアブハズ語を形態素に分析し、それに英語とロシア語の訳を添える。

## 3. 研究の方法

研究の方法は、各語彙の文法項目とその意

味や用法をアブハズ語話者から調査すること、及びテキスト分析によって得られた例文やコロケーションなどのデータを蓄積することである。具体的に言えば、各語彙の文法項目の調査は以下のように行う：

(1) 名詞は複数形と不定形(基礎語彙については人称所有形を伴った形態)をアクセントの移動を含めて調査して記述する。

(2) 動詞は少なくとも以下の項目を調査する：

① 動詞の他動性を調査し記述する。

② 接辞のスロット配置構造の型を調査し記述する。即ち、preverb(動詞語幹を形成する副詞的成分)と語根の境界を画定し、各スロットに充填される接辞の種類を調査する。

③ 終止形の現在とアオリストのクラス・人称形(肯定形と否定形の両方の形)を調査し記述する。

④ 命令形の2人称単数と複数形(肯定形と否定形の両方の形)を調査し記述する。

⑤ 非終止形の現在とアオリスト形のクラス・人称形(肯定形と否定形の両方の形)を調査し記述する。本研究では、非終止形は関係詞接辞を有する形態で記述するが、この際には関係詞の取り得る接辞の種類を全て記述する。

⑥ 絶対形過去の肯定形と否定形を調査し記述する。

⑦ 使役形が派生可能であれば、使役のアオリスト形(肯定形と否定形の両方の形)を調査し記述する。

⑧ 以上の項目の各形態のアクセントと非アクセント下の母音のシュワーをインフォーマントより調査し記述する。

⑨ 特に基礎動詞語彙については、各種の文法範疇の形を網羅的に記述する。Version、可能法、不随法などの文法範疇は出来るだけ活用タイプの異なった基本動詞を用いてインフォーマント調査を行う。

(3) 形容詞はその複数形を調査し記述する。またテキスト分析によって得られた文例やコロケーションのデータの蓄積は以下のように行う：

(4) アブハズ語の民話テキストと神話テキストをインフォーマントの協力を得てロシア語に翻訳し、そこに現れる例文や語彙をデータベース化する。

(5) その他のテキスト(標準アブハズ語のテキスト)からも出来る限り語彙と文例を収集し、インフォーマントの協力を得て、上で述べた項目についての動詞の文法分析を行う。

## 4. 研究成果

アブハズ語話者から収集した語彙・文法情報をデータベース化し、これを辞書形式に纏

めた。またアブハズ語テキストをインフォーマントと協力して分析し、これに詳細な注を付けた。具体的な成果は以下である：

#### データベース構築の作業

(1) アブハズ語の民話テキストと神話テキストをインフォーマントの協力を得てロシア語に翻訳し、その過程で現れる例文や語彙をデータベース化した。このテキストを音韻転写し、形態素に分析した。さらにこれにグロスを付け、英語の翻訳と文法分析を施した注を付けた。このようなアブハズ語テキストの一部は、Abkhaz Texts として発表した(下の雑誌論文1, 2, 3, 5を参照)。

(2) その他のテキスト(標準アブハズ語で書かれた新聞や教科書等のテキスト)からも語彙と文例を収集し、インフォーマントの協力を得て、上の研究目的の箇所ですべて項目についての調査を行った。

#### 辞書編纂の作業：

(3) 名詞は以下の項目について調査し、記述した：

① 複数形と不定形(一部の人称所有形も含む)をアクセントの移動を含めて調査して記述した。

② コロケーションを記述し、例文として辞書に記載した。

(4) 動詞は以下の項目について調査し、記述した：

① 全ての動詞について他動性の区別を行った。「不安定動詞」についても他動性の違いを表現する形態に重点を置いて記述した。

② 全ての動詞について接辞のスロット配置構造の型を記述した。preverbと語根の境界を画定し、各スロットに充填される接辞の種類を調査した。さらに複数形でのみ顕れる場所を表す接辞もできる限り調査し、当該の接辞を用いた例文をインフォーマントに作例して頂いて記述した。

③ ほぼ全ての動詞に関して、終止形の現在とアオリストのクラス・人称形(肯定形と否定形の両方の形)を調査し記述した。多くの動詞では強調否定辞を有する形も記述した。

④ 命令形の2人称単数と複数形(肯定形と否定形の両方の形)を調査し記述した。

⑤ 非終止形の現在とアオリスト形、未完了過去形等のクラス・人称形(肯定形と否定形の両方の形)を調査し記述した。この際、非終止形は関係詞接辞を有する形態で記述し、関係詞の取り得る接辞の種類を全て網羅して記述した。

⑥ 絶対形過去の肯定形と否定形を調査し記述した。

⑦ 使役形が派生可能であれば、使役のアオリスト形(肯定形と否定形の両方の形)を調査し記述した。

⑧ 以上の項目の各形態のアクセント位置の記述と非アクセント下の母音のシュワーを記述した。

⑨ 特に基礎動詞語彙については、各種の文法範疇の形を網羅的に記述した。例えば、Version、可能法、不随法などの文法範疇は出来るだけ活用タイプの異なった基本動詞を用いて記述した。

(5) 形容詞はその複数形を記述した。

(6) 例文は全て形態素に分析し、アクセントを付け、英語とロシア語の訳を付けた。

(7) 機能語には多くの例文を付け、詳細に記述した。

これらを「Analytic Dictionary of Abkhaz」として辞書の形に纏めた。これはアブハジア人のインフォーマントより収集した一次資料に基づいて編纂したアブハズ語・英語・ロシア語辞典であり、斯界において初めてのアブハズ語の動詞形態論を詳細に分析した辞書である。これを平成21年度科学研究費補助金・研究成果公開促進費「学術図書」に応募し、内定を得た(課題番号215068)。平成22年2月にひつじ書房より出版の予定である。本書刊行の意義は、本刊行物のような形の辞書は今日まで出版されたことがないことから、アブハズ語研究やカフカース諸語研究の深化が期待できること、また、一般言語学の研究者やアブハズ語学習者にとって、文法構造が複雑なために理解しがたいアブハズ語への接近が比較的容易になると思われることである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

1. Tamio Yanagisawa, Abkhaz Text (6): How the king's daughter turned into a boy. (I) *Studies in Language and Culture*. Graduate School of Languages and Culture, Nagoya University. Vol. 30-2. 251-276. 2009. (査読無)

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/proj/genbunro/nshu/30-2/yanagisawa.pdf>

2. Tamio Yanagisawa, Abkhaz Text (5). *Studies in Language and Culture*. Graduate School of Languages and Culture, Nagoya University. Vol. 30-1. 123-137. 2008. (査読無)

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/proj/genbunro>

[nshu/30-1/yanagisawa.pdf](#)

3. Tamio Yanagisawa, Abkhaz Text (4). *Studies in Language and Culture*. Graduate School of Languages and Culture, Nagoya University. Vol. 29-2. 315-332. 2008. (査読無)

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/proj/genbunro/nshu/29-2/yanagisawa.pdf>

4. Tamio Yanagisawa, A Review of Russian Aspect and Introduction to Abkhaz Tense-Aspect in Discourse. *Contrastive Studies in Verbal Aspect*. Vol. 1. Nagoya University. 49-74. 2007. (査読無)

5. Tamio Yanagisawa, Abkhaz Text (3). *Studies in Language and Culture*. Graduate School of Languages and Culture, Nagoya University. Vol. 28-2. 159-179. 2007. (査読無)

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/proj/genbunro/nshu/28-2/yanagisawa.pdf>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

柳沢 民雄 (Yanagisawa Tamio)  
名古屋大学・大学院国際言語文化研究科・  
教授  
研究者番号：80220185

### (2) 研究協力者

Anna Tsvinaria  
(アブハズ語インフォーマント)